

開く「牛鬼(うしおに)道がこれまでの愛媛県西祭り」で知られる。だが予市から宇和島市まで延明治維新以降、地元に戻伸されることを機に、宇っていい伊達家は市民和島など県南部の「南予」

愛



宇和島市は基幹産業の「見かねて着てもらった」と宇和島市商工観光課の田中広興さんは笑う。

を求めた。秀宗の父である「独眼竜」伊達政宗の甲冑を所蔵する仙台市博物館から借り受け、伊達「」の協同組合を設立し(松山支局長 若林宏)

# 食べ歩きで街を活性化

## 静岡で「バル」イベント相次ぐ

【静岡】静岡県内で、中心市街地の飲食店をチケット制で食べ歩き・飲み歩きするイベントが広がっている。沼津市、富士宮市で新たに開き、三島市と静岡市での定期開催も決まった。島田、藤枝、焼津の3市は連携イベントとして7月に開く。こうした「バル」イベントは全国に広がっているが、集中開催するのは珍しい。一般的な催しと比べて飲食店などの集客に直接結びつき、街を訪れる人の回遊性が高まることも期待できる。商店街の有力な活性化策として定着しそうだ。



参加各店は予想以上に盛況(2月の「静岡おまちバル」)

### 回遊性高く、集客に威力

沼津市では中心市街地の日之初開催する。参加するのはいずれも地元飲食店の多い40数店。中心市街地の人通りが落ち込んでおり、飲食店の存在を改めて知ってもらって活性化につなげる狙いだ。三島市中心街の商店主などで構成する三島バル実行委員会(川村結里子実行委員長)は今後、5月と10月の第2土曜日に

「バル」函館市のスペイン料理店がスペインの立ち飲み居酒屋である「バル」にちなみ、街中の店舗を飲み歩くイベントを2004年に開いたのが始まり。一般に5枚つづり3500〜4千円程度のチケットを販売する。参加各店は1枚のチケットに対し、飲み物と食事(スペインのバルにちなみ「ピンチョス」と呼ばれる)を提供する。飲食店以外にも雑貨店、テイクアウト専門店なども参加。チケットは

【長野】長野県は国内外から農村体験の若者を積極的に受け入れるための実行計画をまとめた。

### 農村体験、修学旅行受け入れ拡大 海外から110団体目標

長野県

「国際青少年交流農村宣言」に基づくもので、海外からの教育旅行の誘致や農村の癒やし効果に着目した「ニューツーリズム」の創出、農村景観の保全などを盛り込んだ。県や住民、民間企業などが協力して取り組む。

東京都北区は今秋、日本文学研究者で日本永住を決めた米出身のドナルド・キーン氏の寄贈書

### 近に紹介

2200万円。キーン氏が昨年10月に北区に寄贈した日本文学など約600冊の寄贈書。寄贈書は誰でも自由に

### 制作

また、JR王子駅近くの北区飛鳥山博物館でキーン氏の企画展も開く。期間は5月19〜6月24

「国際青少年交流農村宣言」に基づくもので、海外からの教育旅行の誘致や農村の癒やし効果に着目した「ニューツーリズム」の創出、農村景観の保全などを盛り込んだ。県や住民、民間企業などが協力して取り組む。